

ファシリテーター、地域包括ケア専門職“絆”研修で活動！

第7回地域包括ケア専門職“絆”研修③看取りの時期「終末期の支援」

第7回地域包括ケア専門職“絆”研修～仲間同士、知る・つながる・高め合う～3回シリーズの3回目が令和5年2月19日(日)に完全オンラインで開催しました。研修の実施に向けて、研修目的の達成に向行けて、スタッフ全員で打ち合わせ会を積み重ね、事前準備をしっかりと行うことでスタッフ全員の「チーム」力をもって、絆研修に臨みました。



絆研修スタッフ 一同

(“ 絆 ” 研修の概要)

地域包括ケアシステムを担う医療・介護・福祉関係の多職種を対象に、事例を通し①退院支援「病院から在宅へ」、②生活支援「在宅療養」、③終末期支援「看取りの時期」でのそれぞれの役割や多職種連携の重要性を学び、実践につなげていくことを目的に3回シリーズで実施しています。

■ 日時 令和5年2月19日(日) 9:15～12:15

■ 完全オンライン研修

◎ 研修総参加者 54名 : 8グループ

◎ 研修統括ディレクター 足立医師(国民健康保険智頭病院)

◎ ファシリテーター及び研修支援 17名

◎ プレゼンター 2名

◎ 事務局 4名

【プレゼンテーション】

◆アイスブレイク・シリーズ③「看取りの時期」研修メッセージ、事例紹介、

シリーズ③看取り
メッセージ

- ・摂食嚥下困難時の人工的水分・栄養補給について導入、減量・中止の目的を共有する
- ・人生の最終段階における医療の意思決定プロセスについて理解する
- ・医療・介護だけでなく、人生の視点で本人・家族の希望や幸せに配慮することが大切である

13



事例紹介

脳梗塞後遺症がある田中裕次郎さんと妻のひばりさんは、高齢者二人暮らし。裕次郎さんは心不全・誤嚥性肺炎で入退院を繰り返していましたが、最近食事がほとんど取れなくなり、動けなくなってきました。

本事例について、ACP についての本人・家族の思いを共有した後、グループワーク①を行いました。グループワークには、ファシリテーター、記録等研修支援スタッフが充実した話し合いになるようサポートします。

グループワーク①

- ・点滴や胃瘻などの栄養管理(行わないことも含めて)についてどのように考えますか。
- ・医療、介護、福祉、行政それぞれの立場で考えてみましょう。(医療の視点、介護の視点)

グループワークで話し合ったことを全体共有の後、

人工的水分・栄養補給(AHN)について、AHN 導入に関する意思決定、いのちについてどう考えるかなど、倫理的側面も含め、プレゼンターの足立医師よりレクチャーがありました。



いのちについてどう考えるか

生きていることは良いことという価値観に基づく

- ・本人の人生をより豊かにし得る限り、生命はより長く続いた方がよい

—個別事例ごとに本人の人生をより豊かにすること、少なくともより悪くしないことを目指して、本人のQOLの保持・向上および生命維持のために、どのような介入をするのか、あるいはしないのがよいのかを判断

高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン2012
人工的水分・栄養補給導入の導入を中心として 日本老年医学会

30

◆続いて「死が近づいた時の対応について」、双方向性講義を取り入れながら深めていきました。

(プレゼンター 山根看護師)

グループワーク②

かかりつけ医は、意識低下、内服困難、終日臥床、経口摂取困難などの臨床徴候から予後 1週間以内の可能性と判断しました。

•死が近づいた時に医療介護チームとして、どのような対応や配慮をしたらよいでしょうか。

1. 本人に対するケア
2. 家族に対するケア

39

グループワーク②について各グループで話し合った内容を全体共有した後、死が近づいたときの患者さんの状況や、私たちが理解しておくことや配慮することなどについて、山根看護師よりレクチャーがありました。

死が近づいた時

- 看取りにおける一般的な経過や徴候を理解する
- 看取りの時期は、十分な症状緩和と共に、不必要な治療やケアの見直しも検討する
- 家族に対して適切な病状説明や今後予測される変化とその対応、患者との接し方について説明する

42

遺族からみた臨終前後の患者に対する医療者による望ましいケア

Shinjo, J Clin Oncol 2010

医療者の説明

- 現在苦痛がないことを保証する
- 予測される経過を説明する
- 患者の聴覚が保たれていることを保証する
- 苦痛なく亡くなることを保証する
- 詳細な説明なく、急変の可能性だけを警告しない

医療者の行為

- 患者の苦痛を気にかける
- 患者への接し方やケアの仕方をコーチする
- 以前と同じように患者と接する
- 慌ただしく説明しない
- 過度な警告をすることがない
- 患者のそばで、患者に聞かれない話をしてしない

臨終前後の状況

- 患者のそばに家族がいられるように配慮する
- 死後の処置や接し方に配慮する
- 医療者の思慮のない会話を避ける
- 患者の宗教、信仰を尊重する
- 家族の労をねぎらう
- 家族全員がそろってから死亡確認をする
- 家族が十分に悲嘆できる時間を確保する

47

まとめ

- 看取りにおける一般的な経過や徴候を理解する
- 看取りの時期は、十分な症状緩和と共に、不必要な治療やケアの見直しも検討する
- 家族に対して適切な病状説明や今後予測される変化とその対応、患者との接し方について説明する

52



研修会の内容

- 病いの軌跡を通じ、その人の人生に対するそれぞれの専門職の役割を理解する
- 3回シリーズで多職種連携の重要性を学び、実践に繋げる
 1. 退院支援「病院から在宅へ」
 2. 生活支援「在宅療養中」
 3. 終末期支援「看取りの時期」

2023年度
開催予定！

53

【ファシリテーター及び研修支援

◆ブレイクアウトルームでのグループワークの進行、記録、ワーク支援等

ブレイクアウトルームの様子

The image displays two screenshots from a Zoom meeting. The top screenshot shows a PowerPoint presentation titled "発表用ワークシート (グループワーク①)". The presentation content is divided into two columns: "医療の視点" (Medical Perspective) and "介護の視点" (Nursing Perspective). The "Medical Perspective" column lists points such as "食事の食べられない" (Inability to eat), "嚥下と食事のバランス" (Balance of swallowing and eating), and "家族の不安への対応" (Response to family anxiety). The "Nursing Perspective" column lists points such as "家族は食べられないのが苦痛" (Family finds it painful that they can't eat), "ミキサー食やムース食でも" (Even with mixer food or mousse food), and "自宅での提供の不安" (Anxiety about providing food at home). The bottom screenshot shows a Zoom meeting interface with a list of participants on the right side. The participants are: 5G 稲垣 介護支援専門員, 5G ハビネアグリアやわら..., 5G 宮崎市社協 記録, 5G 衣笠 看護師, 5G 佐々木 薬剤師, 5G 國本 支援相談員, 7G 本家 作業療法士, 7G 曾田 作業療法士, 7G 西庭 看護師, 7G 山村幸代/居宅介護, 7G 辻井 薬剤師, and 7G 高口和史 介護支援.

【スタッフの振り返りより】(抜粋)

良くできたと思うこと、このままやっていこうと思うこと

【ファシリテーター】

それぞれの意見を否定することなく、発言しやすい雰囲気が作れた。
話しやすい場を作れるように心がけたこと。話しやすい雰囲気づくりができたと思う。
出来るだけ自発的な発言を求めるようにして、発表も参加者からできていたこと。
グループワークでは、ディスカッションが止まった時に質問を変えることで再開できた。
参加者のフォロー、パソコン環境で GW への入室が遅れた研修生への配慮など。
流れと研修の方向性の枠組みが理解出来つつあるので、参加することを続けていきたい

【プレゼンター】

双方向となる機会を持つために、看取りの経験について参加者に確認したこと。
全体共有の際、各グループの発表で印象に残った点に絞ってまとめたこと。

【研修支援:グループワークにおける記録等】

参加者の方に GW の目的や発言の内容を確認しながら記録を進めるよう心掛けた。
参加者の意見をひろうように心がけた。参加者と対話しながら記録が行えた。
記載したことが発言者の意図とあっているか確認しながらすすめた
発言が「なぜそう思うのか」という点を引き出すような投げかけを意識した
ファシリテーターのサポートをこころがけた。
記録する際に重複した意見を赤字にするなど、発表者が分かりやすいように工夫をした。
事前のスタッフ打ち合わせ会で、グループワークに関して全体で議論できたのは良かった。

今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

【ファシリテーター】

議論が活発になるような議論への参加や、時間管理についてもっとしっかり行いたい。
目的に沿って話を持っていくこと
間が空いてしまった時の声掛けの方法
事前にグループワークの意図をもっと理解しないといけないと感じた。
GW が本題からそれた時の修正
グループワークの目的に沿って、意見交換を進めていき、考えを深掘りしていくことを促したい。
研修の方向性や全体的枠組みの理解に努める

【プレゼンター】

もう少し、ゆっくりした口調でプレゼンする。
医療者ではない職種の参加者にも分かりやすいように、かみ砕いた説明をする。
一方向になりがちなので双方向の機会を増やす。(参加者への問いかけを増やす)

【研修支援:グループワークにおける記録等】

発言者の思いを残した記録にするために簡素化しすぎないようにまとめる力
ワークが深まらない、視点がぶれてきたときの修正のスキルをあげる。
グループとしての合意形成を意識した記録
グループに意見のニュアンスがあっているかなど、投げかける。
ブレイクアウトルームに入ってからグラウンドルールの説明をする。

研修参加者にとってよかったと感じたこと

様々な職種との GW を通して、広い視野で看取りを考えられてよかったと感じた。

他の職種の考え方やスタンスを学び、時には自分自身の価値観も振り返りながら議論されており、大変有意義だったのではないかと感じました。

普段は終末期に直接関わる機会の少ない職場で働かれている方が多かったようなので、今回のグループワークを通じて、終末期の支援について理解が深まったのではないかと思います。

ファシリの方が「正解はないので、自由に発言してください」と最初に説明されたことで経験年数の少ない方も発言しやすくなった。

それぞれの職種や立場で発言し、どの意見も尊重される和やかな雰囲気で行くことができた。発言が保証される安心感があった

アイスブレイキングでグループの雰囲気が良くなり、全体的に活発な意見が出ていました。現場での出来事なども多く意見として出たのも良かったと思います。

全体的な感想・意見

スタッフの皆さんが温かい雰囲気で支えて下さったので、安心してプレゼンできました。この雰囲気が参加者にも伝わり、安心して楽しく参加できているんだらうなと思いました。ありがとうございました。

スタッフとしての参加でしたが、絆研修 3 回シリーズ修了することができました。多職種のかたと様々な意見交換をとおして、自分自身の視野を広げることができ大変勉強になりました。貴重な経験をありがとうございました。何度やっても学びの多い、有意義な会だと思います。これからも頑張っていきたいと思います！

在宅での看取りが珍しい事ではないような在宅支援体制が、鳥取で構築されたら良いなと感じました。

絆研修に参加したスタッフで交流機会やブラッシュアップの機会を持てたい。

とても良い研修だった。今年度 3 回ファシリとして参加し、たくさんの人に出会えることができ楽しかったです。難しいテーマではあると思いますが、人生の最期を看取る側の気持ち、それを支援する側について考える良い機会になったと思います。

打合せでのワークシートについての議論は、参加者から意見が出やすいよう、この研修会をより良くしようという皆さんの気持ちが伝わってきました。参加後アンケートでは今回も嬉しくなるような感想をたくさんいただき、次に向けての励みになっています。

入念な打ち合わせで研修の練度が高まっているのを実感し、準備の大切さを身をもって理解できました。参加いただいた方が、職場や地域で学んだことを活かしていただくことを願っています。また、皆様の姿を見てファシリテーターなどに興味を持っていただくと幸いです。

研修の在り方やスタッフの研修への向かい方等、見習うべき部分がたくさんあり、勉強させてもらっています。

研修に参加される方が従来の医療・介護関係者に加え、地域を支える職種や行政など、多職種の方に参加していただけたようになったことで、受講者や私達スタッフは問題・課題に対して幅広い視点で考えられるようになったのではないかと思います。

今後も本研修会を通じて、本来の目的である「顔の見える関係」を構築し、現場での実践や地域活動に活かしていただければと思います。ありがとうございました。

ファシリテーター活動の魅力について

この絆研修に向けては、1 か月前からスタッフがオンラインで集まり、効果的で学びのある内容にするためにはどのように進めたらよいかなどについて、いろいろな視点から議論を深め話し合って準備しており、打ち合わせ会の時点から学びの場になっていると感じます。また、研修参加者の方からいただいた「気づき」や「今後の取り組み」などたくさんの声を、今後の取組への励みとしています。

この研修で築くことが出来た”絆“を「顔の見える関係」につなげ、これからも新しい仲間を育て、仲間同士で地域の絆を深めていく力になれるよう、今後も魅力ある活動をしていきます。

絆研修終了後 研修参加者全員で！

